

平成 2 7 年度施設管理に対する評価シート

◎基本情報

管理施設

①施設名	大阪市立生涯学習センター
②指定管理者名	大阪市教育振興公社・S P S 共同事業体
③評価対象期間	平成 2 7 年 4 月 1 日 ～ 平成 2 8 年 3 月 3 1 日
④指定期間	平成 2 7 年 4 月 1 日 ～ 平成 3 2 年 3 月 3 1 日
⑤所管課・担当	教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習担当 (電話：06－6539－3345)

管理運営業務等の概要

生涯学習センター概要

① 業務概要	全市的な生涯学習推進の「中核施設」としての機能を果たす総合生涯学習センターと2つの市民学習センターが、有機的に連携して、3館一体となり「区域」及び「小学校区」の学習圏での学習活動を支援するほか、貸室事業、施設の総合管理、建物及び付属設備の維持保全業務等を実施する。																													
② 利用状況の概要	平成27年度の室利用率・室利用人数 <table><tr><th rowspan="2"></th><th colspan="2">室利用率(%)</th><th colspan="2">室利用人数(人)</th></tr><tr><th>H26</th><th>H27</th><th>H26</th><th>H27</th></tr><tr><td>総 合</td><td>85.1</td><td>87.1</td><td>233,660</td><td>252,283</td></tr><tr><td>阿倍野</td><td>73.7</td><td>71.2</td><td>176,404</td><td>159,317</td></tr><tr><td>難 波</td><td>78.3</td><td>75.4</td><td>195,385</td><td>178,499</td></tr><tr><td>平均/合計</td><td>79.0</td><td>77.9</td><td>605,449</td><td>590,099</td></tr></table> 平成27年度の来館者数 686,194人 (26年度 697,780人)		室利用率(%)		室利用人数(人)		H26	H27	H26	H27	総 合	85.1	87.1	233,660	252,283	阿倍野	73.7	71.2	176,404	159,317	難 波	78.3	75.4	195,385	178,499	平均/合計	79.0	77.9	605,449	590,099
	室利用率(%)		室利用人数(人)																											
	H26	H27	H26	H27																										
総 合	85.1	87.1	233,660	252,283																										
阿倍野	73.7	71.2	176,404	159,317																										
難 波	78.3	75.4	195,385	178,499																										
平均/合計	79.0	77.9	605,449	590,099																										
③ 施設の設置目的・目標 (成果指標)	市民の生涯にわたる学習活動を支援し、生涯学習の振興を図ることにより、市民の文化と教養を高め、市民生活の向上に寄与することを目的とする。 (公募時に提示した成果指標) ・貸室利用者アンケートの満足度 80%以上 ・事業参加者アンケートの満足度 80%以上 ・貸室利用率 各館70%以上																													
④ 年度目標	上記③の成果指標のとおり																													

◎管理運営の実施状況

1 施設の設置目的の達成及びサービスの向上

①施設の管理運営状況(管理運営方針・手法に沿った施設の維持管理の状況、平等利用の確保、職員の体制、危機管理・安全管理業務等の実施状況)	施設維持管理の状況、平等利用の確保、職員の体制、危機管理・安全管理など、施設の管理運営状況は仕様のレベルを十分に満たしている。
---	---

②事業計画の実施状況（計画に沿った事業実施、サービスの質、利用促進のための取組みと効果、利用者満足度の把握・反映状況、自主事業等の実施状況）	・新たな指定管理期間（平成27年度～31年度）の初年度にあたり、これまでの実績とノウハウを踏まえ、安定的な施設運営と積極的な事業展開が図られている。 ・ホームページに「地域生涯学習情報コーナー」を新たに設けるなど、生涯学習推進員・はぐくみネットコーディネーターなど地域人材に対する支援の充実を図った。 ・生涯学習まちづくり市民大学「いちようカレッジ」を開講し、ボランティア活動やまちづくり活動について、入門科から専科まで体系的なカリキュラムを組み、のべ980名の参加を得るなど、市民主体のまちづくりに効果的な事業を実施した。 ・新規利用グループの開拓や継続的なグループ利用の拡充を目的とした事業の展開を図るほか、年間を通じて利用率の低調な部屋・時間帯の利用促進に取り組んできたが、平成26年度の料金改定（値上げ）の影響により、市民グループの活動が低調化傾向にあり、平成27年度は、室利用率が前年度を下回った。 ・貸室利用者アンケートについては、施設利用満足度「満足」「おおむね満足」の回答が97.7%であり、職員の対応については「良い」「おおむね良い」の回答が97.8%となっている。事業参加者アンケートにおいては「たいへんよかった」「よかった」の回答が93.6%であり、顧客満足度の高い安定的なサービスが提供されている。
③施設の有効利用（他施設との連携状況、地域との連携状況、市民・NPOとの協働状況等）	・市民グループ・NPOに対して、運営支援（ネットワーク・ラボ、ネットワークサロン）、助成（NPO・市民活動企画支援事業）等を行うことで、市民協働を総合的に推進している。 ・生涯学習インストラクターバンク登録者約500名を対象に、新たに面接を行い、活動実態や課題などの状況把握を行った。 ・総合生涯学習センターでは、市立大学や大学サテライトオフィス等と連携し、各大学の特性を生かした講座を開講し700名を超える市民が参加し好評を得ている。また、神戸学院大学と連携協定を締結し、生涯学習を通じた「防災学習」プログラム開発に着手した。 ・市民学習センターにおいても、大学、民間企業（大型集客施設）等との連携事業が取り組まれている。 ・調査研究事業の一環として、約1,200人の生涯学習推進員の活動に関する全数調査を行い、分析結果をまとめ研修等を通じてその研究成果を還元した。

2 市費の縮減効果（収支状況）

① 収入・支出状況	収入 327,679,650円（内業務代行料 130,118,696円） 支出 304,368,335円 利益配分 3,463,667円（市への納付金）
②市費縮減に係る取組み	人件費の抑制、事業の効率化による経費節減や、スケールメリットを生かした共同購入・共同入札の実施などを通して、歳出の縮減に努めている。

3 社会的責任・市の施策との整合等

環境への配慮、就職困難者の雇用への取組み、個人情報保護に関する取り組み等の実施状況	・障がい者の雇用状況については、法定雇用者数を満たしている。 ・職業体験の場として、大学と連携しインターンシップ生9人を受け入れた。 ・個人情報保護規程を策定し、適切に取り扱っている。
--	--

	・人権研修をはじめとした職員研修を適切に実施している。 ・ホームページに「やさしい日本語」での施設案内を掲載している。
--	--

4 その他（点検等における要改善項目の対応状況、その他特筆すべき事項等）

① 評価項目概要	施設の設置目的や「生涯学習大阪計画」をふまえた、全市的な生涯学習支援の拠点機能を果たすための事業の実施
② 上記についての成果や望まれる対応等	上記を実現するために、多様な事業に取り組んだ。 ○情報収集・提供と学習相談 学習相談 【相談件数 17,522件】 ○現代的・社会的課題に関する学習機会の提供 市政課題に関する講座や本市各部局と連携した出前講座を実施 【大阪市出前講座 実施件数 116件】 ○人材養成・研修 生涯学習推進員養成講座・3年次研修 【修了者数 393人】 識字・日本語交流ボランティア入門講座・研修 【受講者数のべ608人】 生涯学習インストラクターバンク 【登録者数 546人】 親力アップサポーター養成講座・研修 【受講者数のべ129人】 ○教育コミュニティ支援 各小学校区の生涯学習ルーム事業やはぐくみネット事業に対する支援（各種研修や交流機会の提供、活動紹介・情報発信等） ○企画開発 調査報告書（生涯学習推進員、防災学習）の発行

◎評価

1 所管所属による1次評価（太枠にS・A・B・Cの四段階で評価を記入）

① 施設の設置目的の達成及びサービスの向上に対する評価	・平成27年度の室利用率は、市民学習センターが前年度を下回ったものの、総合生涯学習センターでは上回っており、全体では平均77.9%と市民利用施設としては非常に高い水準を保っている。また、施設利用者や職員対応の満足度も97%を超えており、年度目標を超える高いレベルでの市民サービスが提供されている。 ・多様な施策を着実に実施するとともに、生涯学習推進員と協働した研究事業の実施や、大学や民間企業等との連携などの新たな取り組みにも注力している。 ・生涯学習インストラクターを対象に、新たに面接を行うなど、市民目線に立った丁寧な人材育成や活動支援を行っている点も高く評価できる。	A
② 市費の縮減効果に対する評価	事業の効率化等による経費節減や、スケールメリットを生かした支出の縮減に努めている。また、利益配分として約350万円が市に納付された。	B
③ 社会的責任・市の施策との整合性に対する評価	個人情報の保護など、社会的責任・市の施策と合致している。	B
④ 総合評価	・利用料の値上げによる影響が残る中、安定的な利用者サービス、市費の縮減が達成されている。 ・施設の設置目的や求められる施策についても十分に理解し、自律的により良い施設づくりや事業展開を検討し、着実に実行している点は、事業計画以上に本市の生涯学習施策推進に貢献しているものとして高く評価できる。	A

	・引き続き3館で連携・役割分担をしながら、利用者満足度の高い施設づくりに努めるとともに、今後は区役所等と連携した区域への支援にも取り組んでいくことを期待したい。	
--	--	--

2 外部専門家等の意見

・管理運営面では大きな問題もなく、円滑に施設運営している点は高く評価できる。利用者の満足度も非常に高い。 ・事業内容が多岐にわたっているが着実に実施されており、最大限努力している姿勢がうかがえる。 ・さまざまな人材育成事業が実施されており、生涯学習の担い手育成に意欲的である点は高く評価できる。社会参画や社会貢献を意識したプログラムも多数あり、時代の要請にysteering ・利用率が低下傾向にあるが、各館の課題や状況分析をしながら、利用率向上策に取り組んでもらいたい。 ・大学や企業連携は進んでいるが、今後は従来の枠を超えた様々な社会教育関係団体との連携強化も必要ではないか。 ・1年目では3館で連携した効果が見えてこないが、区役所に対する施策支援など、生涯学習の中核・拠点施設として求められる機能を発揮する中で、将来的には3館連携の相乗効果を顕在化してもらいたい。
--

3 所管所属最終評価（太枠にS・A・B・Cの四段階で評価を記入）

①施設の設置目的の達成及びサービスの向上に対する評価	安定的な管理運営を行い、高い利用者満足度を維持している。多岐にわたる事業内容を着実に実施しながら、人材育成や調査研究、他機関との連携にも意欲的に取り組んでいる実績は高く評価できる。	A
②市費の縮減効果に対する評価	経費節減に努めるとともに、利益配分として本市に約350万円を納付しており、市費の縮減に大きな効果をあげている。	A
③社会的責任・市の施策との整合等に対する評価	社会的責任・市の施策と合致した適切な運営がなされている。	B
④総合評価	全体の利用率は昨年度より低下したものの、市民利用施設としては高い利用率を維持している。また施設の設置目的をふまえた事業を着実に実施する一方で、大学や企業連携、調査研究、人材育成など、新たな事業にも積極的に取り組んでおり、想定以上の効果をあげている。次年度以降は、初年度で開拓したネットワークやノウハウを継承しつつ、3館連携した区政支援等に重点的に取り組むことを期待したい。	A

評価の基準

- S…事業計画又は本市の定める水準の想定を大幅に上回る効果が得られた
- A…事業計画又は本市の定める水準で想定した以上の効果が得られた
- B…おおむね事業計画又は本市の定める水準どおりの効果が得られた
- C…事業計画又は本市の定める水準で想定した効果が得られていない